

お一人の校長先生が 退職されました

「喜茂別中学校」鈴木和則 前校長

3月末日で退職される鈴木和則校長を訪ね、喜茂別中学校での5年間についてお聞きしました。

「この5年間、学校評価の効果的活用を努めてきました。学校を内外に開き、教育活動の検証を深め、同時に質の向上を図ることが目的でした。この学校評価を通して、子ども達にとつて学校が楽しい場になること、わかる実感が得られる授業を進めること、さらには、一人の生徒を全教職員が観る生徒指導や教育相談を充実させることに取り組んできたのです。具体的には、と、校内研修や生徒指導研修を通して教師同士が授業実践を交流し、個々の生徒に関する情報の交流を深めて指導に活かすよう取り組みましたので、学習指導面での課題認識を学校全体で共有することができ、子どもたち



特性を小学校から中学校

ちの学びを深めることにつながったということ。また、私自身も校長として個々の先生や保護者の方々とコミニケーションを深めることに努力してきましたので、お互いの理解も進んだのではないかと思っています。

「評価というのは、結果だけを重視することではなく、取り組んだ過程を振り返り、さらに良い結果を導くための検証材料を得ることだと思っています。このことを学校全体で理解できるようにしたのが、この5年間でした。」

成果が見えてきたがゆえに浮かび上がった、新たな課題認識もあると言います。

「特にこの1年間、小中学校間の連携の必要性を、様々な関係者と議論してきました。個々の子どもの特性を小学校から中学校



まで継続的に見ていくことが、とても重要になっていきます。言い換えれば、小学校から中学校に進んだときの学習や学校生活のリズムの変化をスムーズに乗り越えていけるよう、小学校と中学校が互いに連携して、子どもの成長に関する情報の共有を深めることが求められていると思うのです。

この課題は、家庭教育の重要性にもつながると思っています。小学校と中学校の連携を実現していく上で、子どもたちの成長を家庭がしっかり支えていくことは、何より重要なことです。喜茂別中学校の生徒にこれからもっとも求められるのは、『主体性と自立性』です。その力を育むためにも、学校と家庭が協力し合うことが、これまで以上に求められると思います。」

実践に裏打ちされた子どもたちの教育に対する想いを、最後まで熱く語ってくださいました。

「鈴川小学校」鈴木章実代 前校長

鈴川小学校の鈴木章実代校長も、3月末日で退職されました。3年間の想いについてお聞きしました。

「3年前の前任地で、赴任先として小さな小学校を希望しました。ここに来て、自然の中で地域の人たちに見守られながら子どもたちと一緒に学べるのがわかり、本当に希望が適ったと思いました。そんな想いがありましたから、子どもたちが地域のことを知り誇りに思えるよう、ふるさと教育に力を入れたんです。私は、先輩たちから、赴任先の「町史」をすぐに読むようアドバイスを受けていました。かつて町の危機を救ったアスパラの歴史も、町史で知りました。そんなふるさと

の力を子どもたちとも共有したいという想いで、地域の方に生きる力と夢を語っていた場も何度か設けてきたのです。私たち教師も、地域の方からたくさんのお話を学んできたと思います。」

地域の方々と親密な交流を深めてきたことで、先生にはもうひとつ別の思いも芽生えたと

「学校では、私たち教師も子どもたちから様々なパワーをもらっています。地域の方々からの支援に応えるため、子どもたちのパワーを地域の方々にも感じ取っていただけないかと思っていた矢先に、それを可能にしたのが太鼓でした。倶知安から来られた中村教頭先生ファミリーが太鼓を紹介してくれたことで、全校生徒も夢中になって演奏を学び、そのパフォーマンスもそうですが、なにより演奏するたびに子どもたちが成長していく様子に、地域の皆さんが大きな感動を覚えた



のだと思います。」
開校百周年記念事業も、大きな思い出となりました。
「校長職は初めてでしたので、先生方との意思疎通をどのようにするか、試行錯誤の連続でした。その中で、開校百周年記念事業を成功させたことは、先生方にとつても私自身にとつても、大きな自信になったと思います。式典のあと、廊下に掲示されている歴代校長の肖像を眺めていたとき、よく頑張った！とおっしゃっているような気がして、涙が止まりませんでした。」

潤んだ目を抑えながら、赴任して翌年の春学校園に植えたアスパラの苗が、この春初めて収穫できるはず、とうれしそうに話します。アスパラの成長とご自身の任期を重ね、子どもたちと共に暮らした3年間を振り返ってくださいました。

麻生新教育長に聞く



佐藤勝吉前教育長の退任に伴い、前教育次長の麻生隆さんが教育長に就任しました。

麻生隆新教育長は、4月3日の教職員辞令交付式であいさつを行い、学校教育の基本として子どもの「学力」を重視すること、小学校と中学校の「連携」を進めていくこと、教育に携わる者は学校の内部評価や保護者による外部評価などにより自分の位置を謙虚に認識し改善に努めることなどを目標としたい、とメッセージを発しました。このメッセージの背景について、麻生隆新教育長にお聞きしました。

「一言で言えば、平成21年度の教育行政執行方針に基づいて進める、ということに尽きます。3つのキーワードも、この執行方針の理念を理解する糸口として示したに過ぎません。『連携』というのは確かに大きなキーワードですが、小中学校間の連携を目指すうえで、まずそれぞれの学校内部で先生方相互の交流や連携を目指していただきたいという想いを託しています。『学力』は子どもたちが社会に出てから必要となる生きる力の核となるものですが、それは結果だけを言うのではなく、努力し頑張ったという達成感がその基本だと言うことを理解して欲しいと思っています。結果として示されたものをもとに過程を振り返り、次に向けた参考として活かすということは、『評価』の考え方にも当てはまりますね。そして最も大事なことは、これら3つの視点はすべて、『子どものために』という目標に向かう地道な努力のあり方を示したものだと言うことなんです。」

「私自身も含め親子代々が喜茂別で義務教育を受けてきたのだから、地域の子どものために頑張りたい」と話す麻生隆新教育長の言葉は、ことさらの気負いがなく、とても自然な響きを感じさせました。

喜茂別の学校教育を支える 新しい教職員の方々

辞令交付式

4月3日、この春喜茂別町に赴任された教職員の辞令交付式が農村環境改善センターで行われました。

池田正宏教育委員会委員長が辞令の交付を行った後に、麻生隆教育長と渡辺秋雄喜茂別小学校長が歓迎のあいさつを行いました。この中で、今年の「教育行政執行方針」の理念に基づき、特に小学校と中学校の「連携」が大きな課題であり目標であることが示され、子どもたちのために共にがんばっていただきたい、というメッセージが伝えられました。

また、新任教職員を代表して、安保法雄喜茂別中学校長から「地域の期待に応えられるよう力を尽くしたい」と決意が述べられました。最後に、10名の学校評議員に委嘱状が交付されました。

新任の教職員と学校評議員は、次の方々です。

【教職員転入者】※写真右から



- 鳴木香さん (喜茂別中学校)
- 平山純さん (喜茂別小学校)
- 安保法雄さん (喜茂別中学校)
- 岡崎知見さん (喜茂別小学校)
- 麻生隆 教育長
- 渡邊浩司さん (喜茂別小学校)
- 藤木信夫さん (鈴川小学校)
- 青木博見さん (喜茂別小学校)
- 秦泉寺悠加さん (喜茂別中学校)
- 【学校評議員】
- (喜茂別小学校) 阿部昭司さん 山本泰照さん
- 石川三千穂さん 佐藤秀雄さん
- 田中弘子さん 藤塚恵理子さん
- 富田久美子さん 石橋理恵さん
- 堀 浩和さん 松田恵梨子さん
- (鈴川小学校)
- 岩部隆さん
- 菅原優子さん
- 藤原正二さん